

自 己 評 価 表

教育方針	徳・知・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。	重点目標	1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。 2 高い知性と豊かな創造性を養う。 3 強い意志とたくましい体力を培う。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
温かい人間性と豊かな社会性	基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活をする事で体調管理に努めさせ、年間通して欠席0日の生徒70%以上を目指します。 A : 70%以上 B : 69~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 40%未満	D	1年生の出席状況は良好であった。しかし、2年生の出席状況が悪く、コロナ禍で休む癖が安易についてしまったことと、進路や人間関係で悩みを持っている生徒が多かったことが原因として考えられる。	・規則正しい生活をして体調管理により一層努めさせるとともに、悩みを持っている生徒に対しては、教育相談課や人権教育課と連携して生徒の心身の健全育成に努めたい。
	安心・安全な学習環境の確保と心身の健康	自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、交通安全意識の高揚を図り、交通事故ゼロを目指します。	B	朝の登校指導、交通安全教育、委員会活動など交通安全教育を充実させ、軽微な接触事故は数件あったものの、大きな交通事故はゼロであった。ヘルメットの着用、携帯電話を使用しながらの運転が数件あった。	・引き続き交通安全教育を充実させ、交通事故ゼロはもちろん、ヘルメットの着用、携帯電話のながら運転の禁止など交通安全に対する意識高揚に尽力する。登校指導も全職員で順番に実施できたと考えている。
		「心の悩み」解消をサポートし、充実感の持てる学校を目指します。	C	諸検査やアンケート、及びその追跡を行い、悩み解消のサポートに取り組んだ。相談室には放課後、担当者が在室し、毎週金曜日にはスクールライフアドバイザーが来校し、相談に応じた。	・諸検査や学校生活アンケートを活用し、悩みの早期発見に努めたい。 ・放課後の相談室の利用を気軽にできるように周知していきたい。
		保護者・地域に支えられた学校として、PTA総会出席率40%、保護者懇談会出席率100%を目指します。 PTA総会 A : 40%以上 B : 39~30% C : 29~20% D : 19~10% E : 10%未満 保護者懇談会 A : 100% B : 99~80% C : 79~60% D : 59~40% E : 40%未満	B	・PTA総会出席率は昨年に比べ上昇し、35%程度であった。同日予定していた学校行事(陸上競技大会)の参観は少なかったが、授業参観の参加者も昨年に比べ比較的多かった。 ・学期末の保護者懇談会については、どの学年においても80%以上の出席であった。	・PTA総会は、当日に授業参観と学校行事(陸上競技大会)を行い、出席率40%以上を目指す。 ・保護者懇談会については、出席率90%以上を目指す。
	安心して活動できる学校を維持するための防災教育や環境教育を充実させます。	C	シェイクアウト訓練(1回は予告なし)を2回、防災避難訓練を2回実施。教室配置移動のため春と冬の避難時間は比較できないが、真剣に取り組んでおり良好な訓練であった。異臭対応等、危機管理マニュアルを見直した。心肺蘇生法実技講習会を実施した。クリーンえひめの一環として、学校周辺の美化活動を1年生が行った。	・水害や地震等に備え、防災倉庫の物品管理や学校防災体制の見直し等を引き続き行う。 ・美化委員を通じての防災・環境に関する啓発を考える。	

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
高い知性と豊かな創造性	学ぶ意欲を高揚させる 教科指導の充実 (授業改善への取組み)	ICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、授業満足度100%を目指します。(「授業に関する生徒評価」4.8ポイント以上) A : 4.8p.以上 B : 4.7~4.6p. C : 4.5~4.4p. D : 4.3~4.2p. E : 4.2p.未満	A	授業に関する生徒評価は、全体平均4.9ポイントと目標を達成できた。 また、各教科・科目でICT機器を利用した授業が年間を通して積極的に実施できている。学校全体で、指導と評価の一体化に向けての研究及び実践を行っている。	・ICT機器の活用については、「活用＝教育効果の向上」ではない面もある。教科・科目の特性を考慮した効果的な活用方法の研究と実践に努める。
	自ら学び自ら考える力を育てる 家庭学習の充実	確かな学力の定着を図るために、課題の与え方を工夫し、家庭学習1日平均4時間以上を目指します。	B	家庭学習時間は、3年生が通年4.9時間であった。例年より30分程度学習時間が減少しているのは問題である。また、1・2年生は調査発表中が4.7時間、平常時が2.7時間であり、調査時の学習時間は昨年度より増加傾向にある。	・学年が上がることに、今まで以上に主体的に学ぶ習慣を身に付けられるように学校全体で取り組んでいきたい。
	読書活動の推進と 思索する態度の育成	年間1回以上のクラス読書会、2回以上の全校読書会、全学年による朝読書を実施します。 改訂した「螢雪ライブラリー」を活用して読書指導の充実を図るとともに、読書レポートや読書感想文などの実施を通して、より高いレベルで読書し思索する態度を育てます。	B	「螢雪ライブラリー」に選定された図書の購入や、新しい回転式書架の導入などによって、蔵書を充実させているところである。今年度は、図書館の利用者数も増加した。特に1年生がよく利用した。校内読書会は、日本文学について深い思索をすることができた。また、読書感想文では県審査最優秀を受賞することができた。	・朝読書の10分間、集中して読書するという習慣づけをするために、一層の工夫が必要だと考える。職員朝礼との兼ね合いもあるが、教員も生徒とともに教室で読書をするができるように提案したい。
強い意志とたくましい体力	特別活動の充実と連帯感の醸成	学校行事を精選し特別活動をより充実したものにして、たくましい心と体を育てます。 ボランティア活動への参加を促し、「共生」の心を育てます。	A	運動会を平日開催にしたが、生徒の満足度を下げないよう生徒会中心に工夫することができた。新たに芸術発表会を実施し、活躍の場の提供や学校生活の魅力につながる活動ができた。愛媛マラソンのボランティアに300名を超える生徒が参加した。	・来年度は3年に一度の文化祭の年なので、負担が大きくなり過ぎないように工夫しながら、より効果的な文化祭に努める。
	部活動の充実と 心身の健やかな成長	レベルの高い学習と部活動の両立を目指し、生き生きとした学校生活を送れる環境づくりに努めます。(部活動加入率100%) A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	B	加入率は90%を超えた。学習と部活動のメリハリのついた活動ができている生徒が多くいた。一方で、活動時間が無駄に長くルーズになっている生徒も若干目についた。	・より活動にメリハリを付け、学習と部活動の相乗効果が生まれるように教員、生徒が連携を取りながら活動するように努める。
		「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、適切な活動を行います。	B	年間計画、月間計画に基づいた活動がそれぞれの部活動で実施されていた。	・引き続き学習とのバランスを重視し、限られた環境の中で、成果を上げていく。
	人権・同和教育の充実と 豊かな心の育成	人権尊重の意識を高め、差別解消への実践力を高めます。	B	生徒・教職員とも対外的な学びや研修の機会を確保できた。実施できたものには一定の効果があつた。	・HR活動や講演会などの研修の機会だけでなく、人権尊重の意識を高める啓発や学びの活動を人権委員会が中心となって企画・実施する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があつた B：かなりの成果があつた C：一応の成果があつた D：あまり成果がなかつた E：成果がなかつた）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
夢の実現	進学指導の充実と進路意識の醸成	生徒全員の自己実現・進路実現を目指します。 (国公立大学合格率70%以上) A : 70%以上 B : 69~65% C : 64~60% D : 59~55% E : 55%未満 (国公立難関大学+医合格30名以上) A : 30人以上 B : 29~25人 C : 24~20人 D : 19~15人 E : 15人未満	B	国公立大学総合型選抜・学校推薦型選抜では、昨年度は7/22(合格者数/受験者数)、25/51の結果であった。本年度は総合型選抜が9/19、学校推薦型選抜は20/44であり、昨年より合格率が2ポイント上昇した。総合型・学校推薦型・一般入試併せて現役生157名、既卒生10名、計167名、難関大及び医学科に現役生37名、既卒生2名、計39名が合格し、昨年度の22名より17名増加した。	・螢雪大学や出張講義、オープンキャンパスツアー等の進路行事を通して高い目標を持って学ぶ意義を伝えていく。また、早い時期から学年団と協力し、同じ大学を目指して切磋琢磨できるグループの育成を図る。次年度は新課程1年目となるため、生徒が安心して受験に臨めるように更なる情報収集に努め、担任会等を通して情報を学年団と共有し、生徒との面談や教科指導に活用してもらう。保護者説明会等でも情報発信に努める。
		高大連携を深め、視野を広げ、学びへのモチベーションを高めます。	B	2年生ZESTは、大学と連携して課題研究に取り組み、大学の先生から直接指導・助言を得られた(年間4回)。活動に「学びがあった」「興味・関心」が持てたの項目の正答回答平均値はそれぞれ4.5ポイント、4.2ポイントであった。自己評価平均値は3.9ポイントであった。	・各学年のZESTでの課題研究、進路探究が相互に関連し合い、興味・関心分野をより深められるような体制作り、また、各種大学オンライン講義とZESTでの探究活動が有機的に結びつくような体制づくりを図る。
		「西高に入学してよかった」と思う生徒の育成を目指します。(「学校評価(生徒評価)」4.5ポイント以上) A : 4.5p.以上 B : 4.4~4.0p. C : 3.9~3.5p. D : 3.4~3.0p. E : 3.0p.未満	B	生徒評価の平均は昨年並みだが、2年生の評価が低い。学習や進路選択が本格化する時期であるため、個に応じた学びや進路相談等を研究したい。「生徒の実態に応じた進路相談が行われている」の評価が学年が上がるにつれ高くなっており、担任の面談や教科の個別指導等が適切に行われてきたと考える。	・キャリア・パスポートを活用し、生徒に自己の強みや志望分野を振り返る機会を適切に設ける。新課程入試に対応できるように、教職員への情報提供に努め、指導体制の充実を図る。1年生と保護者の「進路室の利用方法、進路情報の収集方法の周知」に関する評価が低い場合は、自己活動や保護者対象の進路
安全管理	開かれた学校づくり	ホームページに毎日の生徒の活動や連絡事項を掲載するなどして情報発信に努めます。	B	学校からの必要な情報は確実に掲載することができた。生徒の日々の活動に関しては、各部署で可能な範囲で掲載の協力をお願いした。時期を逸して一部掲載できなかったものもある。	・内容や更新頻度については随時適正化を図っていききたい。また、生徒の日々の活動については積極な更新への協力をお願いしていきたい。
	安全管理	情報の適切な保管・管理に努め、事務処理の適正化を徹底します。	C	学習系、校務系ともに、課・教科に応じてフォルダを分けるなど、適切に情報を管理できている。また、セキュリティ研修会を行い、教職員の情報管理への意識の向上を促した。	・より効率的で、負担のない管理方法になるよう改善を図るとともに、今後もセキュリティ研修を行い教職員の意識向上に努めたい。
		施設・設備の安全点検、改修を徹底し、事故の防止に努めます。	B	安全点検を4月、8月、1月に行い、さらに保健環境課員や美会委員による校内点検を随時実施した。補修箇所や職員椅子等については、事務課と協力して可能な範囲で迅速に対応した。	・老朽化に伴う補修箇所がいろいろあるが、引き続き事務課と協力して随時対応していく。
業務改善	働き方改革の推進	業務の効率化・平準化を図り、勤務時間の適正化によってワーク・ライフ・バランスの取組を推進します。	C	諸会議・委員会の進行が、勤務時間範囲内に収まりきらなかったことが多々あった。また、業務量の不公平を意見する職員もいた。	・会議・委員会を主管する運営委員に、更なる進行の工夫・改善を依頼したい。また、分掌における職員の配置を一層適正化したい。
	職場環境の整備	毎月の衛生委員会の実施や職場の整理整頓等により、教職員の心身の健康の保持増進に関する啓発を行います。	B	職員室に加湿器や空気清浄機を導入し、感染症罹患防止に効果を発揮した。	・職員休憩室が物置き場のようになっており、気軽に休憩ができるスペースに改善したい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。